

## 活動報告

|            |   |
|------------|---|
| 団体名        | 学校法人立命館 災害復興支援室   |
| 活動名        | 福島県川俣町における立命館大学災害復興支援室による災害ボランティア活動   |
| 活動期間       | 2019/11/01 ~ 2019/11/30   |
| 活動の成果      | <p>立命館大学の大学生による災害ボランティアを派遣したことで、当面の被災した家具片付け・泥かきボランティア等の対応の終了に貢献することができた。活動にあたっては、現地の災害 VC と調整し学生がまとまった形で対応できる被災者宅を支援するなどした。これにより、平日少ない人数しか確保できず被災から数週間手がつけられなかった被災者宅の片付けや泥かきなどを集中して対応することができた。ボランティアニーズとしては終了したが、今後の被災地の状況をみすえ被災者の生活再建が課題と言える。学校法人立命館としてこれまで培ってきた川俣町役場および川俣町社協等との連携をもとにし、継続した現地での活動展開を検討していく。活動を行なった 11 月は大学の授業時間中であることから、平日の現地での活動は制約をともなった。そのため、土日の活動を中心に全学生が登録する教学情報システムを通じボランティアの呼びかけを行った。さらには、東日本大震災以降に継続的に活動してきた学生サークル等にも呼びかけるなどし、迅速に参加者を募りまとまった人数のボランティア派遣が実現した。支援対象地域の選定については、教育機関としての上記の制約もふまえ、アクセスが良いことから大量のボランティアがエントリーする被災地（例：いわき市、丸森町等）ではなく、きめ細かく対応できる地域を選定し、また受入の自治体や災害 VC 等の状況をふまえ支援ニーズの割にボランティアが不足している福島県川俣町を支援先とし、断水が続く地域においても機動性の高い人数規模であったことから、トイレが近くにない（休憩のたび車で移動する）状況にも柔軟に対応ができた。</p> |
| 寄付者へのメッセージ | <p>本申請の活動においては、当面の緊急的対応に特化し担い手が不足しがちな地域に集中して派遣できるように現地との調整を図りながら実施しました。特に支援ニーズが高かった家具片付け・泥かきボランティア等に対応した活動を展開しましたが、今後は被災者の生活再建を見すえたコミュニティ支援も展開していく予定です。今回活動を行なった川俣町小島地区は町内でも被害が比較的大きな地域であったことから今後のコミュニティ支援の中心的な活動場所として想定しています。中長期的な支援については、学校法人立命館の教職員等による寄付を財源として 2011 年 4 月より活動を行なっている機関「立命館災害復興支援室」として対応を継続していく予定です。このたびは現地での支援活動に即応した迅速な助成をいただき感謝致します。</p>  |

(活動のようす)

